

第 18 回クリーンセンター連絡協議会 要点録

【日 時】令和 7 年 2 月 15 日(土) 午前 10 時 00 分～11 時 06 分

【場 所】プラスチック類資源化施設 多目的室

【出席者】

会 長：新石自治会

委 員：新石自治会 2 名 新井自治会 1 名 落川上自治会 1 名
百草園団地自治会 1 名 百草園自治会 2 名

事務局：日野市 5 名（環境共生部長兼環境共生部クリーンセンター長、環境共生部主幹、施設課長、ごみゼロ推進課係長）

国分寺市 2 名（建設環境部長、清掃施設担当課長）

小金井市 1 名（環境部長）

浅川清流環境組合 5 名（事務局長、事業課長、事業課事業係長、総務課長、総務課主幹兼総務係長）

【傍聴者】 1 名

【配付資料】

- ・次第 「第 18 回クリーンセンター連絡協議会 次第」
- ・資料 1 「プラスチック類資源化施設運転状況」
- ・資料 2 「北川原公園ごみ搬入路に関する違法状態解消に向けた取り組み状況」
- ・資料 3 「可燃ごみ処理施設運転状況」
- ・資料 4 「環境定点測定結果」
- ・資料 5 「水銀測定値が公害防止基準値を一時的に超過した件について」
- ・資料 6 「次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について」
- ・資料 7 「水銀混入防止対策等について」
- ・資料 8 「令和 6 年能登半島地震に伴う災害廃棄物の受入処理について」

【次 第】

1 開会

2 議事

(1) 日野市より

①プラスチック類資源化施設運転状況

<説明内容>

日野市より資料 1 に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし。

②北川原公園ごみ搬入路に関する違法状態解消に向けた取り組み状況

<説明内容>

日野市より資料2に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員) : 違法性解消策の両案にメリット・デメリットがあると思うが、説明を求める。

(日野市) : ①案 : 搬入路を北側に集約することで南側の搬入路の部分を公園面積として増やせるほか、搬入路についても橋梁化することで、南北の自由な通行ができるところがメリットである。

デメリットとしては、搬入路を北側に集約することで3市の搬入ルートが変更となるところ。これについては周辺自治会の方から、収集車はなるべく市域に入らない形で搬入ルートを確保してほしいとの要望書をいただいている。

②案 : メリットは現状の状態を維持できるところであり、搬入路等の変更も必要ない。デメリットは公園の面積が増えないところ。

(委 員) : 周辺の3自治会より、収集車が生活圏域に入らない②案としていただきたいとの要望書を出した。

(2) 浅川清流環境組合より

①可燃ごみ処理施設運転状況について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料3に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員) : 資料の維持管理情報を見ると、搬入車両1台当たりの積載量が日野市は他の2市の半分程度である。これはどこかで積替えを行っているのか。30年後に国分寺市や小金井市にごみを搬入する際にはどの程度の台数になるのか。

(日野市) : 現状、収集した車両(2トン車)で組合に搬入しており積替えは行っていない。

今後、日野市以外に搬出する際には、施設までの距離にもよるが、往復に係る時間によって収集の効率に影響が出ることも懸念されるため検討は必要と考えている。しかし、積替えを行う場合、積替施設が必要となり、施設の設置場所や手順等も併せて検討していかなければならないと考える。

(小金井市) : 令和2年に組合に搬入を始める前は、広域支援を受けており、搬入先から車両台数を減らしてほしいと要望を受けていたこともあり、当時は2トン車が主流であったが小金井市では3トン車も使用していた。現在も3トン車を使用しており、積替えはしていない。車両の大きさ的には2トン車も3トン車もそれほど変わらないと業者からは聞いている。10トン車となると生活道路を通行することが難しい。

- (国分寺市):国分寺市も小金井市と同様に道路事情等から大型車両は使えないので、収集車両でそのまま組合に搬入している。積替えは行っていない。
- (委 員):日野市も人件費や効率を考え、3トン車の使用を検討しないか。
- (日野市):現在、2トン車が1台当たり1日4往復程度しながら収集している。どのような形が最適なのかは今後検討が必要と考えている。
- (委 員):国分寺市と小金井市が効率化を図っているのに、日野市は組合に近いからといって何もしていないとの印象を受けてしまうので検討はしてほしい。
- (日野市):収集車については効率の問題や委託業者の設備投資の関係等課題もあるが、今後も意見を伺いながら効率の面だけでなく環境にやさしい車両の導入等も検討していきたい。
- (委 員):3市共同が決まった際に、クリーンな車両の導入も要望として挙げており、日野市長からは努力すると言われたがいつまで経っても導入されていない。このような事も含め、進めていかなければならないのではないか。要望としてお伝えする。
- (委 員):地震等の災害が起こった際に、炉の緊急停止等の処置はあるのか。再始動の際に、ダイオキシン等の発生が懸念されるがどのような処理となっているのか。また、煙突等の構造物は大丈夫か。災害時の対応を確立しておいていただきたい。
- (組 合):施設自体は震度6強までは耐えられる施設となっている。地震以外の災害も含め、対応は検討していく必要があると考えている。地震が起きた際の炉の緊急停止については持ち帰り、後日回答とさせていただきたい。

②環境定点測定結果

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料4に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし。

③水銀測定値が公害防止基準値を一時的に超過した件について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料5に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし。

3 その他

①次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について

<説明内容>

国分寺市より資料6に基づき説明を行うとともに、各市よりごみ減量に向けた

取組みについて説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員) : 国分寺市と小金井市は日野市より一人当たりのごみ量が少ないが、どの取組みが功を奏しているのか。

(国分寺市) : リサイクル率が高いことが影響していると考ええる。

(小金井市) : 過去から広域支援をお願いしていた関係で、たとえ大きな減量効果が見込めなくても、いろいろと新たな取組みを続けてきた結果だと思われる。

(日野市) : 可燃ごみだけでなく資源物等も含めたごみ量の少なさでは日野市は全国1位であり、ごみ減量は進んでいる。組合への持込量が多い理由については、不燃残渣やプラ残渣等リサイクルに回せないものや、し尿処理施設から出る汚泥も可燃ごみとして組合に搬入していること等が考えられる。

②水銀混入防止対策等について

<説明内容>

組合より資料7に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員) : 水銀回収キャンペーンもかなりの成果が出ているが、そろそろ止めるのではないかという噂もあるがどうなのか。

(組 合) : そのようなことは無く、今後も継続していく。

(委 員) : 混入した水銀を特定することは難しいと思うが、混入しているのは体温計が多いと考えているか。

(日野市) : 水銀測定器で検査はしているが、例えば体温計であれば割れて水銀が揮発していないと測定できない。専門家に聞いても特定するのは困難であると伺っている。このようなことから、水銀製品をごみに入れないことを徹底していただくことが一番重要だと考えているが、焼却に至る過程の中においてもできる限り排除していきたい。

③令和6年能登半島地震に伴う災害廃棄物の受入処理について

<説明内容>

組合より資料8に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員) : 受け入れる災害廃棄物は木くずを含む可燃性混合廃棄物とあるが、この中にはプラスチック類も含まれるのか。

(組 合) : 含まれる。

(委 員) : チラシをいただいて地区内に回覧をしたが特に問い合わせは無かった。組合には何か問い合わせがあったか。

(組 合) : 特にありません。

(委 員) : 輪島市と珠洲市のごみ処理施設は稼働しているのか。

(組 合): はっきりとした情報は届いていないが、能登半島のどこかのごみ焼却施設が再稼働を始めたと聞いている。

4 閉会

次回会議（予定） 令和7年7月9日（水） 午後6時30分～
プラスチック類資源化施設 多目的室

以上